

「技は宝」先人の匠をつなぐ



屋根の下地の傷んでいる部分だけ取替えをし、銅板葺きの工事をします。

静岡浅間神社の「平成の大修理」が始まりました。今後二〇年かけて行われる大事業の先陣を切って国の重要文化財・大歳御祖神社本殿屋根保存修理工事（工期平成二七年一月～平成二八年三月）を元請として弊社で行わせていただいています。屋根に葺かれた銅板が外され八六年ぶりに

木組に日の光が当たりました。文化財の修復の基本は最小限の補修に努めます。現存材と同じ素材を、同じ道具を使って同じ形に整え、取り換える約三〇〇の部材には、すべて「平成二七年度修補」の焼き印を押し、新たに銅板で屋根を葺きます。

神部神社、浅間神社、大歳御祖神社の三社を総称して静岡浅間神社と呼ばれ親しまれています。神部神社は第十代崇神天皇の御代、約二一〇〇年前に駿河開拓の祖神・駿河の国魂の大神として鎮座され、延喜式内社であり、平安時代には駿河国総社となります。『国内神名帳』には美和明神と記され、『類聚国史』に従一位と記載されており、この地方最古の神社です。浅間神社は延喜元年（九〇一）、醍醐天皇の勅願により富士山本宮より分祀され、爾来富士新宮として国司の尊崇を受けました。そして今回の工事の大歳御祖神社は約一七〇〇年の歴史を誇り、かつては奈吾屋社ともいわれ、安倍川近くで開かれていた「安倍の市」を守護する産業発展の神「大歳御祖命」を祭っています。静岡浅間神社の主な現存社殿群は、江戸幕府の命で一八〇四年から約六〇年かけて造営されました。地元をはじめ全国各地から一流の宮大工が集められました。

現在静岡県内の文化財修復事業の多くは、県外の事業所や技術者が請け負っています。文化財修復を行うことによって昔の職人の技がみられることにより技術の向上につながります。そして県内の技術者が行うことにより、地元の職人の技術も向上するため、是非 県内の文化財は地元の工事業者が行うことが望ましいと考えています。「建物には歴代の宮大工の思いが込められています。江戸の匠を次の世代にしっかりバトンタッチしたい」そんな思いで日々工事を進めております。

宮大工という仕事について、浅間神社で仕事をしている弊社の職人を平成二八年一月一日（月）の静岡新聞に掲載されました。

書院・庫裡が完成

庚申寺様（浜松市）

浜松市浜北区の庚申寺様（臨濟宗方広寺派）とは平成二五年九月に書院・庫裡新築工事の工事請負契約を済ませ、工事を進めておりました。その後平成二六年十一月に上棟式を行い順調に工事が進み昨年の十月に完成し、昨年の十一月二二日は晋山落慶式が行われました。庚申寺の皆様そして檀家の方々には工事中大変お世話になりました。今後ともよろしくお願いいたします。



竹林寺様地鎮式（浜松市）



二月二日には竹林寺様（曹洞宗）では本堂・位牌堂の地鎮式が行われました。この日は浜松には珍しく風が穏やかで大変助かりました。更地になった旧本堂の跡地には新しい本堂の地縄が張られ、地鎮式に参加していただいた役員の方にも確認していただきました。刈初めの儀・鋤入れの儀そして最後に弊社の社長が鋤入れの儀を行ないました。今後は三月初めより建て方の工事が始まり、本堂の上棟式を三月二七日に予定しております。安全第一に工事を進めてまいります。

樺の端材はいかがでしょう

弊社のホームページのブログでもお知らせしましたが、樺の端材が多くなりましたので、激安・格安にてお譲りいたしております。写真は配役の単牌を作製してみました。大きさは幅十五cm×長さ四五cm×厚さ二cmで四方面取りがしてあり、フック穴もあけてあります。価格は一枚当たり二千円になります。またこれ以外に希望の製作品の依頼、また日曜大工が趣味の方は希望の材木の寸法などございましたらお気軽に弊社まで御尋ねください。無くなり次第終了してまいりますので、お早目がいいかと思えます。



「葬送儀礼」

日本テンプルヴァン(株)井上拓郎

「三. 一」

「梅が香につと日の出る山路かな」松尾芭蕉の一句ですが、関東でも梅の花が咲く季節になりましたが、皆さん如何お過ごしでしょうか？

今回は「伝え方」について書きたいと思っています。最後までご一読頂ければ幸いです。

二〇一一年三月一日一四時四六分、三陸沖でマグニチュード九・〇の大地震が発生し、東北地方の太平洋岸の広範囲にわたる市町村を津波が襲いました。地震と津波により、一五八九四名の方が亡くなられ、未だ二五六三名の方が行方不明となっております。また、お亡くなりになった方の九割が水死だったそうです。(警察庁発表)

今月の一日(三. 一)に、日本に未曾有の損害をもたらした東日本大震災発生から五年が経ちます。震災後には、全国からボランティア活動や慰霊法要をおこなう為に、大勢の一般人や僧侶が被災地を訪れました。そして被災地では、毎年この時期に慰霊法要がおこなわれております。仕事柄、業界紙(仏教・宗教界の機関誌)や宗報などに目を通す事が多く、大勢の宗派や地区仏教会、またその青年会などの活動実

績を知る事が出来ませんが、一般の方々(宗教や仏教に関心のない人たち)は、そういった事実を知らない方が大半だと思います。ただ被災地の方々には、実際に慰霊に訪れた僧侶が、お布施も受取らず、救援物資や義捐金を持って、残された遺族の気持ちを少しでも和らげるために伺っている事を知っています。しかし、インターネットで商売

をしている、アマゾンの僧侶派遣(お坊さん便)や、お布施の定額制を謳っている葬儀社のネット上のニュースに対する、一般消費者の意見は、とてもそういった事実を理解しているとは思えない、見儘(みまま)な内容に驚かされます。こういった声に対して、公益財団法人全日本仏教会も仏教界としての見解(お布施について)を発表しましたが、どこまで伝わったかは未知数です。

世論の情報収集の主流が、テレビや新聞からネットに変わりつつある今、宗派や地区仏教会が「伝え方」に対して真剣に取り組まなければ、伝わらない事なのだと思います。今は未知数でも、いずれ「のつと日」の結果になる事を望みます。

「ステルスマーケティング」

ステルスマーケティングって言葉をご存知でしょうか？広告宣伝方法の一種で、悪い意味ではサクラやヤラセのような方法の

営業手法です。ネットの世界では口コミサイトや購入者・利用者の声を意図的に操作したりする手法が一般的です。

例えば、実際に人気が無いのにもかかわらず、アルバイトなどを使って、ネットにいい評判を書き込んだり、サービスや値段が希望通りだった様に書き込んだりします。しかしその評判を見聞きした消費者が、いざ利用してみると評判通りでは無かったなどという事があります。話は変わりますが、商品や製品、サービスを比較できる価格コムというサイトが有るのをご存知でしょうか？このサイトでは、葬儀の価格や内容の比較、口コミを見る事ができます。先日、お布施の定額制を謳った関西の某葬儀取次会社は、安さが売りの会社ですが、利用者から価格コムに悪評の書き込みが複数ありました。業界のニュースにもなり、安いのには訳があったと言う事ですが、すぐに新しい「いい評判」で埋め尽くされてしまいました。ステルスマーケティングだったかは定かではありませんが、情報が有り触れた時代だからこそ、何が真実か見極める力が必要なのかも知れません。そしてこういった現代の「伝え方」があるのも現実なのです。

知って得する ペットの話

通常ペットといえば犬と猫を思い浮かべる人がほとんどでしょう。ペットフード協会の年次推計によれば、二〇一四年十月時点の猫の国内飼育数は九十九万匹と過去三年間で三・七%増え、逆に犬はこの間十三%減って一〇三五万匹になりました。一世帯当たりの飼育数が犬は一・二五匹で猫は一・七九匹ということからわかるように猫は複数飼いが主流なので猫の飼育数の押し上げの要因となっています。

また生涯の飼育平均費用も猫（平均余命一四・五六歳）が七〇・三万円に対し、犬（平均余命一四・二五歳）は一八・五万円と高い。そして猫は清潔好きで、犬のように散歩させる必要がなく、日本の狭い住宅でも受け入れられる。などの事情もあり猫の飼育数が犬の飼育数を逆転するのではとみられていましたが、二〇一五年のペットフード協会の調査では猫が前年比〇・九%の減に転じて九八七万四〇〇匹、対する犬は前年比四・一%減の九九一万七〇〇匹だそうです。僅差で猫の逆転は

なりませんでした。

次にペットの話で避けてられないのが殺処分です。環境省の統計によると二〇一三年度の行政による猫の殺処分数は九万九六七一匹のうち幼齢個体は約六〇%にあたる五万九七一匹、犬の殺処分数は二万八五七〇匹になります。殺処分数は減らせないものかとあきらめにも似た気持ちになります。熊本市ではもう殺処分はしたくないという職員の気持ちの一つになって画期的な取り組みが行われ、殺処分数ゼロという記録を達成したそうです。熊本市の愛護センターでは安易な引き取りをせず、飼い主と徹底的に話し合います。例えば「噛み癖があつて飼えない」と六〇代の男性がコーギーを持ち込んできました。元々飼っていた息子が海外転勤になり面倒みることになったといえます。「犬が悪いことをしたんだから、罰を受けて当然だろう」と主張する男性に「噛んでいいことを教えてしまったのはあなたの息子ではないか。息子の失敗をなぜこの犬が命をかけて償

わなければいけないのか」と論じたりです。

我が家も犬一匹と猫一匹を飼っています。犬は約一才のときに飼育されていた動物の保護施設からもらってきた。猫はどこからかきた迷いネコなので、どちらも子猫・子犬のかわいい時を知りません。でも十分にかわいく、家族でかわいがっていますし、特に犬は私の散歩の相手をしてくれ、毎日の生活に張りができました。このように成犬を迎えるメリットは性格も大きさもわかっているということ。この犬と猫が最後を迎えるまで我が家で楽しく暮らしたいと思っています。



犬のあんずと猫のあんり